

震災マニュアルの見直しを行って

工藤文枝、高橋優子、永瀬絵美、中村麻衣子

池田千穂、佐藤文字、成田雪美

秋田組合総合病院西3病棟

<Ⅰ. はじめに>

当病棟は腎臓内科をはじめ、糖尿病代謝科、眼科、皮膚科の混合病棟である。院内には腎臓病センターがあるが、病棟内にも入院患者対象の血液透析室（以下、HD室とする）が併設されており、月曜日から土曜日の間、一日平均3～4名の重症度の高い移送困難な患者の血液透析（以下、HDとする）を行っている。

1995年の阪神、淡路大震災以後、災害対策の重要性が叫ばれ、医療施設でもさまざまな角度から対応策が進められている¹⁾。

当病棟では平成14年度に機能別看護体制に沿った災害マニュアルが作成されていたが火災中心の避難訓練であった。しかし現在は、固定チームナーシングに変更しており、現状に適応しないことから震災の特徴を踏まえたマニュアルの見直しが必要とされた。

そこで今回震災に着目し研究、評価したので報告する。（図1）

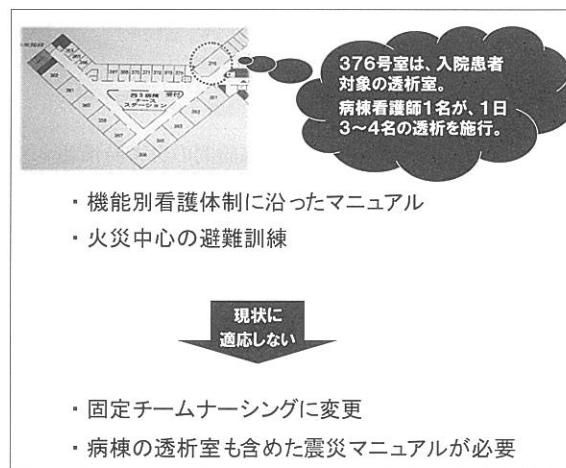


図1

<Ⅱ. 研究方法>

期間：H17年5月1日～9月30日

対象：病棟看護師23名、看護助手2名

方法：①震災に対する意識調査、ビデオ学習後のアンケート調査

②震災マニュアル作成

③デモンストレーション、デモンストレーション後のアンケート調査（図2）

期間:平成17年5月1日～平成17年9月30日
 対象:意識調査一病棟看護師23名 透析経験に関わらず
 震災についての勉強会一病棟看護師23名
 看護助手2名
 内容:①震災に対する意識調査
 ビデオ学習後のアンケート調査(一部記述式回答)
 ②震災マニュアル作成
 ③デモンストレーション、デモンストレーション後の
 アンケート調査
 ※アンケート回収率100%

図2. 研究方法

<Ⅲ. 結果>

震災に対する意識調査、ビデオ学習後、デモンストレーション後のアンケートはいずれも回収率100%だった。震災に対する意識調査では、「勤務中に震災が発生したらどのような行動をとるか?」については揺れが治まるまで自分の身を守り、落ち着いたら患者の巡視に行くが14名、重症患者、HD中の患者の所に行き、状況を見て対応するが4名、すぐに患者のベッドサイドに行く、病院の指示に従うが2名、家族の安否を確認するが1名だった。「震災時何が一番不安か?」(記述式自由回答)については、患者の搬送方法が11名、どのように動いたらよいか、スタッフの対応が3名、患者の搬送の優先順位、患者・職員共に無事に避難できるか、家族の安否、HD中の対応・処置、夜勤帯の患者の避難が2名、避難経路が1名という意見だった。(図3)「震災時のHD対処方法を知っているか?」については、知らないが13名、なんとなく知っているが5名、知っているが5名だった。震災時の対策方法(記述式自由回答)については、物品の落下防止、整理整頓が8名、入院時オリエンテーションの際非常口の場所を説明する、ベッド柵の設置が6名、定期的に避難訓練を行うが4名、夜勤時の防災訓練が2名、HD時の避難訓練、防災袋の定期点検が1名だった。「病棟独自のマニュアルは必要か?」については全員が必要であるとの回答で、マニュアルに基づいた避難訓練の実施を希望していた。(図4)

<p>・もし勤務中に震災が発生したら、どのような行動をとりますか? (記述式自由回答)</p> <p>①揺れが治まるまで自分の身を守り、落ち着いたら患者の巡視に行く……14名 ②重症患者、HD中の患者の所に行き、状況を見て対応する(注入ポンプを赤のコンセントに切り替える点滴台が患者に倒れないかの確認等)……4名 ③すぐに患者のベッドサイドに行く……2名 ④病院の指示(アナウンス)に従う……2名 ⑤家族の安否を確認する……1名</p>	<p>・震災時、何が一番不安ですか? (記述式自由回答)</p> <p>①患者搬送の方法……11名 ②どのように動いたら良いか……3名 ③スタッフ・患者の対応……3名 ④患者搬送の優先順位……2名 ⑤患者・職員共に無事に避難できるか……2名 ⑥家族の安否……2名 ⑦透析中の処置・対応……2名 ⑧夜勤帯の患者の避難……2名 ⑨避難経路……1名</p>
--	---

図3. 震災に対する意識調査の結果

<p>・震災時のHD対処方法を知っているか?</p> <p>①知らない……13名 ②なんとなく知っている……5名 ③知っている……5名</p> <p>・震災時の対策方法は?(記述式自由回答)</p> <p>①物品の落下防止、整理整頓……8名 ②入院時オリエンテーションの際非常口の場所を説明する……6名 ③ベッド柵の設置……6名 ④定期的に防災訓練を行う……4名 ⑤夜勤時の防災訓練……2名 ⑥透析時の避難訓練……1名 ⑦防災袋の定期点検……1名</p> <p>・病棟独自のマニュアルは必要か?</p> <p>①はい……23名 ②いいえ……0名</p>

図4

その後、意識調査の結果をもとにマニュアルの見直しを行い、個々の震災発生時の役割、行動を組織化し、具体的にイメージできるようにした。また、HD離脱方法について、シャントの場合とHDカテーテル使用時の場合に分け、写真を載せて分かりやすくした。(図5)

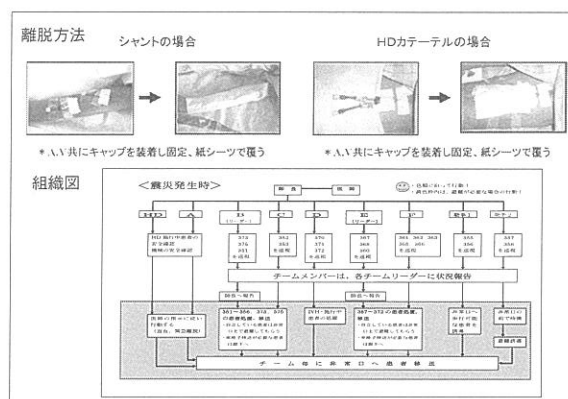


図5. 震災マニュアル

その後、見直したマニュアルを基に避難訓練のデモンストレーションと震災時のHD時の対応についての説明を行った。その結果、ペアンをかけ切断する方法とキャップを使用した方法の2通りの方法を行った。また、個々の役割を迅速に行動に移せるように、毎朝の申し送り時に避難時担当の病室番号が書かれたワッペンを付けた方が良いという意見が聞かれた。

デモンストレーションを行った後のアンケート結果では、「デモンストレーションを行ったことで自分の役割や行動をイメージできたか?」については、はいが21名いいえが2名だった。「透析の緊急離脱方法について理解出来たか?」については、はいが23名だった。「避難訓練をどのくらいの間隔で行ったほうがよいか?」については、半年に1回が20名、1年に1回が3名だった。その他に避難方法について寝たきりの患者の搬送方法、階段からの避難方法についての不安などが挙げられた。(図6)

<p>・デモンストレーションを行ったことで、自分の役割や行動をイメージできたか?</p> <p>・はい……………21名</p> <p>・いいえ……………2名</p>	<p>・避難訓練をどのくらいの間隔で行ったほうがよいか?</p> <p>・半年に1回……………20名</p> <p>・一年に1回……………3名</p>
<p>・透析の緊急離脱方法について理解できたか?</p> <p>・はい……………23名</p> <p>・いいえ……………0名</p>	<p>・その他</p> <p>・寝たきり患者の搬送方法が不安</p> <p>・階段からの搬送方法が不安</p>

図6. デモンストレーション後のアンケート調査

また、意識調査の結果を基に「患者様に対する備え」として、入院時オリエンテーションの際に非常口の場所を説明する、入院時に患者へ危険防止としてベッド柵を最低1つは設置する、又、震災時はベッド柵につかまり布団をかけるよう説明する(HD時も同じ)。入院時よりネームバンドを装着する、装着してない患者にはベッドから離れる際、持参するよう話しておく、床頭台

のテレビの上に物を置かないよう説明し頭上からの落下を防止する、点滴スタンドを頭側に置かない、寝たきりの患者様には吊り下げ式の点滴スタンドを使用する（スタンド式の場合、倒れる可能性があるため）、コード類は束ねておく、レスピレーター・ポンプ類は赤のコンセントに接続する等の8項目を挙げてマニュアルに取り入れた。（図7）

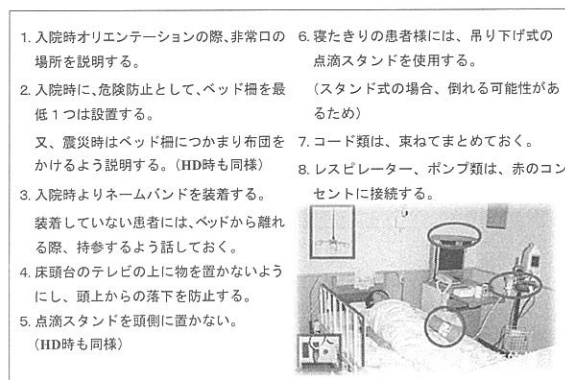


図7. 患者に対する基本的備え

<Ⅳ. 考察>

これまでの避難訓練は火災中心であったため、震災時の患者への対応や個々の行動が明確でないことから、不安であるという意見が多数聞かれたと考える。

その為、現在の看護体制、病棟の特殊性でもある、HD室の隣接に適応できるマニュアルの作成が重要であると考え。具体策として朝の申し送り時、避難時担当の病室番号が書かれたワッペンを装着することで震災に対する意識を持って業務を行うことが出来る。また定期的に避難訓練を実施することで、個々の役割や行動を明確にすることに繋がると考える。

現在、当病院には9名のHD未経験者がいる震災発生時、組織図通りのスタッフがいないでも、HD室で適切な対処が出来るよう指導を行った。それにより、HDの対処方法が理解出来たという結果になった。しかしどのような状況下においても適切な対応が出来るよう、今後もHD未経験者に対して教育の機会を持つことが大切であると考え。

内藤は、「災害は発生する季節や規模、時間によっても状況は変化する。全ての事態を想定した対策、訓練は不可能であるが、訓練や教育を通して災害時の人々や行動に対する予測性を高めることは可能である。」²⁾と述べている。これらのことにより、看護師だけではなく、患者へも震災に対する心構えを持ってもらうことが必要であると考え。そのためには、患者に対する基本的備えを用いて、入院時、患者と家族に説明を行い、患者から理解と協力を得るためにも、マニュアルを有効に活用し、日頃から定期的な避難訓練、災害に対するスタッフや患者への教育の機会が必要であると考え。（図8）



図8. 考察

<V. 結論>

- 1) 病棟の特殊性にあった震災マニュアルを基に行ったデモンストレーションは、病棟スタッフが個々の役割や行動を具体的にイメージできた。
- 2) 病棟看護師に対して震災時のHD教育を行うことで、HD離脱方法、知識の統一化を図ることができ、効率的に行動出来る。
- 3) 震災発生時、迅速に対応するためには定期的な避難訓練、災害に対するスタッフ、患者への教育が必要である。(図9)

- | |
|--|
| <p>①病棟の特殊性にあった震災マニュアルを基に行ったデモンストレーションは、病棟スタッフが個々の役割や行動を具体的にイメージできた</p> <p>②病棟看護師に対して震災時のHD教育を行うことでHD離脱方法知識の統一化を図ることができ、効率的に行動できる</p> <p>③震災発生時、迅速に対応するためには定期的な避難訓練災害に対するスタッフ、患者への教育が必要ある</p> |
|--|

図9. 結論

<引用文献>

- 1) 赤塚東司：浦賀 QQIndex (Quick Quake Index) の考察、日本透析医会雑誌 Vol.19, NO3, 2004
- 2) 内藤秀宗：「透析医療における事故と災害対策マニュアル」、P101、先端医学社、東京、2004